

第2回飯田市社会福祉審議会児童福祉分科会（飯田市版子ども・子育て会議）

第2回飯田市次世代育成支援対策地域協議会 議事録

日時 令和7年11月11日（火）18:00～20:05

会場 橋南公民館 第1・2会議室

出席者（委員）：原委員、宮澤委員、岩橋委員、松沢委員、松村委員、田中委員、多田委員、田中委員、渋谷委員、黒河内委員、壬生委員、永井委員、村松委員、光沢委員、藤岡委員、塩沢委員

（事務局）：山崎こども未来健康部長、筒井こども課長、塩澤保育家庭課長、宮嶋保健課長、福沢福祉課長、伊藤学校教育課長、高山こども課長補佐兼子育て支援係長、片桐こども課長補佐兼こども相談係長、北沢こども課発達支援係長、三石こども発達センターひまわり所長、久保田こども課こども相談担当専門技査、牛山保育家庭課長補佐兼施設管理係長、飯島保育家庭課長補佐兼家庭相談係長、齊藤保育家庭課保育係長、福澤保健課長補佐兼母子保健係長、木下学校教育課児童クラブ係長

（司会）：高山こども課長補佐兼子育て支援係長

1 開会

2 児童福祉分科会長あいさつ

原でございます。もう外に出ると真っ暗ですね。真夜中に会議をやっているような状況になりまして、どこに行っても寒いですねっていう挨拶になっております。本当に凍まるような寒さになりました。

事前にご案内した通り、今日の会議は全員に発言していただきますので、よろしくお願ひいたします。その前に事務局から資料の説明をしていただいて、それから全員の方に発言をしていただくという会議でございますので、聞いているだけではなくて、どんどん意見を出していただきまして、活発な議論を進めていただきたいと思います。

最近のニュースでちょっと悲しいと思うのが、タイ人の少女を人身売買みたいに働かせたり、千葉の方でこどもをネグレクトして親が逮捕されたとか、こどもに関する悲しいニュースが多く、本当にちょっと悲しい思いをしております。子育てっていうのは、家庭の中で行うものなんですけども、実はそうじやなくて、やはり社会の中で、社会全体でこどもを育していくっていう意識を持っていくことが大切だと思います。常々、私申し上げてるんですけれども、子育てを終えた世代の人たちと話をすると、子育てなんか私は終わったから関係ないって興味のないようなこと言いますけど、本当はそれまずいんですよね。子育てを終えて、その経験がある方こそ、さらにその子育てのことについて知恵を出していただいたり力を出していただいて、地域のこども達がすくすくと育っていくような社会になれば、本当にいいと思います。今日は、先ほど申しましたように最後が8時ということで、オーバーしないように進めていきたいと思いますので、ご協力をお願いして、有意義な会議にしていただきたいと思います。

3 こども未来健康部長あいさつ

こんばんは。こども未来健康部長の山崎でございます。本日は公私ともお忙しい中、また暗くなつてから、この18時からの会議の開催ということで、お集まりいただいてありがとうございます。

令和7年度も折り返しになりますて、昨年度策定し、今年度からスタートしました飯田市こども若者まんなかプラン、また、いいだ未来デザイン2028の後期計画も、こども若者の意見も取り入れるということでスタートしております。今年度、こども若者の意見を聞くことに力を入れてきています。

この後の協議では、8月9月に実施しました調査について、担当よりご報告をさせていただきます。若者がここで暮らし続けるために自分たちの将来をどう考えているのか、どんな支援が必要なのかということをお聞きして、またそれを私達もどう考えて市政に反映していくのか、どんな取り組みを考えいくのかということを考えていかなければいけないですし、先ほど会長からもお話をありましたけれど、皆さんからご意見を頂戴するということですので、ぜひ、こんなことをしたらいいんじゃないとか、こんなことを考えてみてはどうかというご意見を頂戴できれば、現在来年度の予算編成ですとか、年度戦略、また重点事業などを考えておりますので、そこに反映できればというふうに考えております。

ぜひ、皆さんのお心のないご意見を頂戴できればと思います。特に学生の皆さんのが意見を言いやすいような雰囲気をぜひ委員の皆さんで作っていただき、皆さんからもご意見を頂戴できればと思います。限られた時間ではありますけれども、どうぞ本日はよろしくお願ひいたします。

4 社会福祉審議会本部会報告

原委員	第1回社会福祉審議会が7月25日に開催され、私が出席してまいりましたので、ご報告をさせていただきます。 初めての審議会でしたので、委員長及び副委員長を決めました。委員長に高齢者福祉分科会の幸森委員、そして私が副委員長に選任されました。 以上、社会福祉審議会のご報告とさせていただきます。
-----	---

5 協議事項

(1) 飯田市若者の意識と生活に関する調査結果について

(高山こども課長補佐佐兼子育て支援係長より資料No.1-1～1-3の説明)

意見質問事項

A委員	調査結果について、何か質問はありますか。
委員	質問なし。
A委員	では、続いて資料No.2の説明をしていただいた後に、No.1とあわせてご発言をお願いできればと思います。

(2) 若者の声を聴く事業について

(こども課子育て支援係宮澤主事より資料No.2の説明)

意見質問事項

A委員	若者の声を聴く事業について、何か質問はありますか。
委員	質問なし。
A委員	それでは、No.1とNo.2をあわせて全員の方にご発言をいただきたいと思います。
B委員	まず若者の意識と生活に関する調査結果報告書からいきますと、自分自身が飯田市のフィールドワークのイベントに参加したことがあり、そこで飯田市の良さを知る機会が多かったなど自分の中で思ったので、そういう飯田市のイベントをもっと増やしたり、学校全体で参加できるようになると、飯田市の良さが伝わりやすくなつていいと思いました。 次に学生の声を聞く取り組み状況の方ですが、まず大学生向けライフデザインセミナーについては、参加している生徒の声が前向きなものが多かったので、他の学校に行って、このイベントを行ったりして広げていったらいいんじゃないかなと思いました。 次に、子育て世代の声を聞く取り組みの状況についてですが、こどもを預けられる

	<p>環境が欲しいという意見が多かったので、商業施設などの中に託児所のような場所や、親子で一緒に室内で遊べるような環境や親御さん方が1人の時間を過ごせるような場所を作れたら、こどもも預けることができたり、そのまま息抜きや買い物もてきて、精神的身体的な負担が軽減されて便利ではないかなと思いました。</p> <p>次に、子育て講習会でのフリートークの中で、幼児の施設が充実しているのに小学生の遊び場が少ないという意見がありましたが、そこはスポーツ施設などを自由に使えるようにしたり、スポーツ用具の無料の貸し出しなどを行ったら、気軽に遊びやすくなるのではないかなと思いました。</p>
C委員	<p>若者の意識と生活に関する調査結果報告書について、アンケートの回答数がかなり少ない点がすごく気になって、若者の飯田市への取り組みへの関心が少ないので感じました。関心を持ってもらうためには、若者にとって身近な存在であるSNSをもっと活用して発信することが効果的なのではないかなと思います。学校でアンケートに答えるときなどに、質問の数が多かったり面倒くさいなって言ったりして後回しにする友達とともにいて、期日までに結局答えていないっていう様子も見たことがあるので、短時間に簡単にできるアンケート、今回のように二次元コードから回答できるのもとてもいいと思ったので、そういうのを活用していくことや回答することで自分に何かプラスになるものがあったら、興味を持って回答してくれるのではないかなと思いました。あとは学生向けにアンケートを実施する際は、学校に協力を促すことで、クラスの時間などに回答する時間が取れるので、多くの意見が回収できるかなと思います。</p> <p>次に、学生の声を聞く授業について、私の経験からになるんですが、保育園・小学生の頃は親が仕事で、わりと祖父母の家に預けられることが多かったんですが、ずっと預けられるっていうよりかは、友達と過ごしたりとか一緒に宿題したりっていうのをやりたかったなと思ったので、お昼もあって宿題も見てくれる無料で誰でも参加できるというような、親が安心して預けられる子どもの居場所が休日や長期休みにもっとあつたらしいなと考えました。また、小さい子どもが集まる場所に、高校生がボランティアやバイトができる仕組みにすれば、学生が子どもと関わる良いきっかけになると思うし、人手も確保できるのかなと考えました。小学校などが利用できれば集まりやすいと思うし、特に宿題のサポートなどは高校生の強みが生かせるのではないかなと思います。あとは、感想にも書いてあるように、子育ての経験を聞く機会があることによって将来にイメージが持てるので、ともてもいいことだなと思いました。</p> <p>私は子どもが好きで、お母さんになりたいという夢があるのですが、実際飯田での子育てで、どんな取り組みや支援があるのかを知らないことが多いので、そういう子育てに関する取り組みを知る機会をもっと増やすことで、将来についてのイメージを持てたり、自分が親になったときに不安や悩みを気軽に相談できる場所があれば安心することができると思ったので、これからも続けていくべきだと考えました。</p>
D委員	私は将来飯田市で結婚し子育てをしたいと考えています。その中で、もっと若者が楽しめる場所が増えたらしいなと思います。例えば、駅の近くのショッピングモールやスポーツチャののような施設、Gong chaなどの人気のカフェ、そしてインスタ映えするようなおしゃれな場所があれば、若い人たちが自然と集まると思います。ま

	<p>た、飯田市には、きれい景色や自然がたくさんありますが、そうした魅力をもっと発信することも大切だと思います。公園だけでなく、雨の日や暑い日でも遊べる室内の公園のような場所があれば、こどもを育てる家庭にとっても過ごしやすくなると思います。そうした場所があることで、飯田市に住みたい、ここで子育てしたいっていう人が増えると感じました。</p> <p>そしてもう一つ、私は将来保育士として働きたいと考えています。保育士の仕事は、こどもたちの成長を支えるとても大切な仕事です。保育士はこどもたちの命を預かるという点で、看護師と同じように大きな責任を持っています。そのため、保育士の給料や待遇がもっと良くなり、やりがいを持って長く働ける環境になってほしいと思います。私は飯田市が若者にとって、また子育て世代にとっても住みやすいまちになるように、遊べる場所の充実や保育士という職業への理解と支援が広がっていくことを願っています。</p>
E委員	<p>高校生と短大生と、若者の声を1人1人こんなにいっぱい持っているから、みんなの声が集まれば、もっといろんな意見が出て、飯田市を考えることになってくんんだろうなと思って、すごくいい、若者の声を聞くって大事だなって改めて思いました。</p> <p>今、県内の養成校が、軒並み学生数がどんどん減っています。保育士になりたいっていう高校生が減っています。その中で地元の短期大学は、県内の養成校に比べると増減が少なくて同じような人数をずっと保っています。入ってきてくれる学生に、「本学をどうして選んでくださったの」と聞くと、「わいわいひろばがあるから」というのがものすごく大きいです。県内の養成校に子育ての広場があるのはうちはだけだったんです。だから北信からも中信からも、「わいわいひろばがあつて日常的にこどもと関わると思ったから、この学校を選びました」と言ってくださる方がすごく多いです。そしてオープンキャンパスのときも高校生が来てくれたときに、わいわいひろばと一緒にになってお祭りをするとか、短大生がそこで親子とこどもと関わっている姿を見て、自分たちもこういうふうにやりたいって思って入ってきてくれる高校生もたくさんいます。</p> <p>今40名くらいの学生なんですが、みんな就職が決まつても、やっぱり飯田下伊那の保育士さんの数が足りないっていう現状で、誰かいませんかっていう声を大変よくいただきます。ですから、学生数を確保するっていうことをこれから少子化の中でやっぱり維持していくっていうためにも、この保育士、わいわいひろばっていう飯田市の子育てつどいの広場も連携して、そして身近に実習に行かなくても、身近に授業の中で関わるっていうことをすごく高校生が求めているんだなと思ったので、そこをもっと支援していきたいなって思います。</p> <p>それから、本学は飯田下伊那の学生がたくさん来てくれます。外に出て行くっていう選択肢もあったと思うんですが、「どうして」って聞いたら、「私は飯田が好きだから。飯田市で保育士になりたい」と。「自分が小さいときに先生が優しかったし、自然の中でいっぱい遊んだのが楽しかったから、私もそういう保育をしたい」って学生が言います。だから、そういう小さい頃に受けた体験っていうのが外に出たとしても「飯田良かったな」、就職したとしても、また戻ってくるっていうふうになるには、心の中に何か原風景みたいなものがあって、保育園や幼稚園のときに、あー楽しかったなっていう思いがやっぱり学生の声を聞いているとわかるので、そ</p>

	<p>いう体験をさせてあげるような保育士さんになるように、私達も育てたいなって思っているので、今ちょうど来年の学生の申し込みがどんどん来ているところなんですが、おかげで幼児教育学科は今年より増えるような気配がありますので、飯田市の皆さんと一緒にって保育士の養成を頑張っていきたいなと思っています。</p>
F委員	<p>若い方の意見も聞き、それからちょうどこの職業でいくと、今飯田短大の先生からもお話をいただいて、保育士不足といわれていますけれども、こうやってやりたい、なりたいっていう方もいらっしゃるところでは、私達もやはりバックアップしていくかいけないといけないなっていうのは改めて思いました。</p> <p>子育て支援としては、今年度どこの園もそうかもしれないんですが、やはり育休明けのお母さんたちが1年経つと、今まで働いていた職場に復帰しなければいけない。そうすると、こどもさんを大体満1歳になってくると預けるというところで、うちの園も今実際に、0・1・2歳児がもう正直いっぱいという状況です。4月の最初の頃は少ないんですが、5月6月からだんだんと空きが少なくなり、飯田市の方でもやはり空いている園とか受け入れてくれる園を一生懸命探しながら、そのお母さんたちが職場に復帰できるために尽力してくださっているんですが、そこがやはりこれから飯田市がより子育てがしやすくするには、私達、幼稚園・認定こども園や保育園などが受け皿を広げないといけないけれども、そこにはやはり保育士が必要になってくるっていうところの調整がとても大変ですけれど、やはりやっていかないっていうところを改めて感じさせてもらいました。働くお母さんが増えてくるのは、ちょっといいのかどうかわかりませんが、最初やはりこどもさんがちっちゃいわずか1歳半ぐらいで、18時ぐらいまで幼稚園・保育園にいる。そういうのが現実であるっていうところがあります。うちの園に関しては土曜保育をやっていますが、できるだけ土曜保育も、お仕事がないお母さん、例えば平日お仕事をされているお母さんが土曜日はお休みで、でもちょっとこどもさんを預けながらお母さんがリフレッシュするっていうところで、利用してもいいですよと言っています。</p> <p>あとは先ほども出た小学生の長期の受け入れについても、家で1人で留守番もできるかもしれないけど、タブレット片手に1人の留守番、それよりも幼稚園や保育園に来て小さなこどもたちと関わることで、小学生の子たちも1日を楽しく過ごせるのではないかと思います。</p> <p>あとは誰でも通園制度で、お母さんがちょっと2時間3時間こういう理由があるから預けたいっていうときには、やはり園としては受け入れようというところで、うちの園もそれは登録させてもらって、制度をやっていますけれども、このように、上手に調整しながらかなっていうのは思いました</p> <p>あともう一つ、中学生の職場体験っていうのは、とてもいいなっていうのを改めて思っています。これは教育委員会も関わってくださっていますけれども、中学生がより社会というところを感じる良い体験機会であるので、そこはぜひ続けていってもら正在ながら、中学生が視野を広げていく場として、事業所の方たちもたくさん手を挙げて、受け皿をやってくださるといいなというふうに思いました。</p>
A委員	<p>私も実は都会に勤めていて、帰ってきて子育てしているんですよね。私は三男坊で、長男もこっちに帰ってきていますので、別に家庭の事情で帰ってくる必要はなかったんですけど、帰ってきてこどもも4人いるんですけど、何でそういうふうなこと</p>

	<p>になったかと考えますと、やっぱり飯田で小さい頃にいい思いをしたと。小さい頃にいい思いをして、都会に出ていたけど、また帰ってきて飯田で結婚して子育てをしたいなと思って、それが実現しているということです。</p> <p>先ほどのお話を聞くと、やっぱり若い人たちがいい思いをしていると、一旦は出るけど帰ってくる、そんなようなこともありますので、小さい頃にいい思いをさせてあげることがいいことじやないかなと思います。</p>
G委員	<p>認定こども園を運営している園長・理事長という立場でもちょっとお話をさせていただければと思います。アンケートや実際若い方の意見を聞いてということですけれども、私自身も高校を出て、大学、それからちょっと名古屋の方で働いて帰ってきている身なんですけども、なかなか飯田市の良さっていうのは、いるとわからないうところが多いのかなというふうに思います。一回外へ出てみると、あ～飯田っていいところだなって。比較ができないんでね、ここにいるだけだと。意外と実感として感じない部分があるのかなというふうに思います。実際、東京で私も住んでいましたけれど、東京は魅力があつて面白いとこですけども、一生住むところじやないな、本当に勝ち組のようなお金があつてっていうことなら楽しいところですけれども、そんな人はわずかなんで、それを考えると、最終的には育ったところに魅力を感じるし、そこがそのときに飯田に帰りたいなって思える場所であることが大事なんだろうなということは、経験者として感じます。</p> <p>それからアンケートの中で、いろいろな施設の話がでましたけども、飯田もいろいろな若者が集えるようなとか、子育てのための施設というのは、いろいろ工夫されていると思いますけども、もっといいところも実はあって、私の知っているところだと、塩尻にえんぱーくとか、えんてらすというのがあるんですけど、すごい大きな施設の中に図書館があつて、学生さんも実習・学習するようなエリアもたくさんあって、親子で遊べる施設があつてっていうところは、意外と他にも公共施設であるところはあるんですね。飯田市もいろいろ考えておられると思いますけども、そういうものもあるとやっぱり学生は勉強しに来たり、親子が遊びに来たり。それからあと遊べる施設なんかも今考え方が変わってきていて、屋外で遊べる施設ではなくて、気候だとか天気関係なく広いエリアで親子が遊べる施設というのがやっぱり行政も考えて作って、より子育てに安心して親子で遊べる場所、また、若い方、学生さんがふつと勉強とかなにげなく学校とは違う場所で勉強できるっていう環境ができるのかなと思うので、飯田市で考えてもらえば。当然お金がかかる話ですけども。</p> <p>それから認定こども園の園長という立場からですけれども、今待機児童というのは飯田市もほとんどいないんじゃないかなと思います。でもこれは、数字上、定員を割り振って0～1歳児はどこかに入れるっていう待機児童0で、実はそうではなくて、兄弟関係がおれば絶対普通はその下の子を入れたいですよね。でも、その施設が未満児だと入れられないと、結局待機児童になってしまったり、どうしても働くなきゃいけないと、兄弟で違う施設へ入所せざるを得ないとか、そういう現実があるのも事実なので、日本全国待機児童がいないって言っているんですけども、細かいことを言うと実は0ではなくて、兄弟関係がバラバラだったり、東京なんか有無も言わさず空いている施設に行きなさいっていう。そういうような現状だとは思うんですけども、そういうところがある中で、おっしゃるように、どうしても途中</p>

入所っていうのが、4月5月に入れても、この時期になるとほぼほぼどこも0歳児を受けられない状況になってしまっているのが現実です。これはやっぱり保育士が足りてない。4月5月は余力があってスタートできるんですけども、だんだんといっぱいになり、受入ができないっていうのは、今どこの施設さんも、この時期の現状かなというところであります。

飯田市は、実は0歳児養護っていって国ではやっていないような、下のお子さんが1歳になるまでは、両親のどちらかが働いていなくても上のこどもが入れる制度があって、子育てに関してそういう制度を入れていただきたいと思うんですけども、年子だと駄目なんですね。2歳の子は、認定こども園であれば満3歳になれば1号認定で入れるんですけども、年子の場合は下の子が1歳になると上の子は2歳で、まだ3歳になっていないので、そういう現状があつたりして、これは国の制度なんですけども、なかなかそういうところでまだまだなんとかしてあげたいなっていう。育休が3年間あっても結局それが使えてないっていう現状が起きてしまっているっていうところは、現場の方から見て、何とかならないかなっていうところは思うところです。

それから、学生さんもおっしゃっておられましたが、実は国の方は今すごい子育て制度に力を入れていて、お金を投入しているんですね。基本給なんかは、1～2万くらい上がって、毎年上がっている現状なので、イメージとして保育士は給料が安いっていうのは、それは社会から見たら低いんですけども、国は一所懸命考えて、初任給が1万とか2万とかは上がってるっていうありがたいところが実はあるっていうことは、また知っておいていただけるとありがたいかなと思います。

あとは、問題になるのはやっぱり学童ですね。保育園に関しては、国も今力を入れてるんですけど、その後の学童に対しては、今国も学童保育で小学生が放り出されて、そういう現状が日本全国であるんですけども、飯田でも一緒だと思います。学童、小学校の低学年をどうやって守れるかというか、見られるかっていうところが大きな課題になるところじゃないかなっていうところは私も思います。

あと飯田短大が共学になりましたけれども、学生さんがそのまま飯田に残るには、やっぱり多くの高校生が進学をしますんで、本当は4年生大学みたいのがあるといいと思うんですけども、信大の誘致が上手にいかなかつたりしてということもあると思うんですけども、そのまま外に出るんじゃなくて、その学生を飯田で抱えて、そのまんま飯田で就職っていうことが一つのルートとしてあるといいんだろうと思いますけども、なかなかそこは難しいのかなっていうところを私は思います。

最後に、先ほど中学生の職場体験の話も出ましたけども、今キャリア教育、みらい創造教育って、教育委員会の方でやっておると思うんですけども、私そっちの方にも委員で行っているんですけども、そこが本当はリンクするといいんじゃないかなっていうのをすごく思うんですよね。あっちはあっちで教育委員会で、未来創造教育っていうんなキャリアですね、小学校とか中学校から職業に対してもいろいろ勉強して、9年間でいろんなことをやりましょうとやっているのは、未来創造教育いう名前に変わってるんですけども、こちらはこちらで児童福祉という分野からやっていて、本当はそこが一緒になるともっとすごい大きくみれるのになっていうところなんですけども、どうしても行政の縦割りになるのかもしれません、そこ残

	念だなっていうことは、どっちの委員会でも感じているところです。
H委員	<p>もう保育園の関係の話は他の先生方がいっぱいしてくれて、今までのお話の中でも、若い学生がしっかりした考えを持っているというところが、本当にそう思いながら、私も頷きながら聞かせていただきました。今、保育士の待遇はだいぶ変わってきていて、私が入ったころは、いろいろ考えられないことがいっぱいあって、それが当たり前だと思って仕事をしてきたんですけど、今になって本当に働く環境が大きく変わってきたので、若者がこうやって声をあげてくれることで動くことがたくさんあるんだなって、改めて思いました。私達、引退組がいろいろ言うよりも、若い方たちがしっかり声をあげていくことが大事だなっていうことを改めて思いました。</p> <p>保育園の話を少しさせていただくと、先日園見学をしたいっていうことで、12月に1歳になるこどもさんのお母さんが、こどもさん連れて保育園の見学に来られました。帰っていくときに、「入園までにやっておいた方がいいですか」っていう質問があって、どういう意図で聞かれたのかちょっと私もわからないんですけど、その時に、「何もしなくていいです」って言って、「もうお母さんといいる時間はあと数ヶ月になるので、その時間を本当に一対一で楽しんでください。お母さんも楽しんでください。こどもさんにいっぱい愛情をかけてください」っていう話をして帰つて行つたんですけど、その答えが本当に良かったのかなって思いながらも、お母さん自身も何を聞きたかったのかなっていうところもちょっと後ですごく疑問に思つて悩んだんですけど、そういう部分やっぱり地域の保健師さんとも連携しながら、未就園児のお母さんたちと何か具体的な話をできる時間や機会をいっぱい持たないといけないなっていうのは、私の中の反省でそのとき思ったところです。</p> <p>あと、今、保育体験っていうのを参観日以外に、公立保育園は保護者の方の都合のいい日にちを決めてもらって、年間に1回どちらかの保護者が参加してもらって、半日なり1日なり保育体験という形で、参観日のような保育士のお手伝いみたいなことをやっていただいてるんですけど、その中でもやっぱりアンケートを取ると、希望する施設みたいなところには、必ず雨の日でも遊べる場所を作つて欲しいっていうことで、短大のつどいは本当に私も行かせてもらって、とてもいい施設だなと思ったんですけど、年齢が小さいこどもさんはいいんですけど、やっぱり走りまわつて、エネルギーを発散したいこどもたちが行くところがやっぱりないんだなっていうところを痛感しています。先日、長野市に何か遊びの大きな施設ができたっていうのをニュースで聞いたんですけど、まあ長野市も遠いなって思つたり、せめてもうちょっと駒ヶ根あたりにできると行きやすいのかなって、飯田市は無理かなって思つてている私がいけないですけど、近くにでも何かそういう施設があるといいのかなっていうふうに思ったところです。</p> <p>あとは、なかなかこどもたちがタブレット、テレビよりもタブレットでYouTube見たりゲームしたりっていうところで、お母さんたちがもう離したいんですけど、やめさせられないっていうのが悩みの一つで、土日になるとかわらんべ行つたり、美博行つたり、できる限りのいろんなところに行って体験させていたりするんですけど、結局疲れたからもう帰ろうと言って、うちに帰つてくると夕方はずっとタブレットっていう話を聞いて、何かそういうところも本当にこどもたち難しくなつてきているのが本当に現実で、そういうところは本当にどうにかして変えていきたい</p>

	なつていうところを、今保育士たちとも考えているところですが、なかなか結果がついてこないというところが現実としてあります。
I 委員	<p>私はもうとっくに子育てが終わって、もうおばあちゃん生活なんですけれども、私事なんですけども、私は2回子育てをしてます。今 25、26 歳になる子を1歳の時から私が育てたもんですから、その時に雨の日に遊びに連れて行く場所がなくて、北信の方はスケートやスキーの選手ができるのに、南信はなんにもない。スキー場が室内にあつたらなってそのときに思ったこともあります。で、どうしようかっていうと、サティとかゲームセンターに行って少し時間をつぶしてお金をかけて、そんなこともあります。学校に行くようになりましたら、学校の帰りは保育園の学童でさんざんお世話になって、私達おじいちゃんおばあちゃんも一緒に動物園に連れてっていただいたりして本当にありがとうございました。</p> <p>25 歳になった息子も体験学習に行ったところに今就職して、今飯田で、おじいちゃんおばあちゃんをみないといけないから遠くに出られないのかなっていうものもあるんですけども、体験学習をしていただいたものですから、そこへ就職して、今考えてみると、ほかの娘のところのこどもたちもみんな飯田市にいるんです。ほんと飯田っていいなってつくづく感じました。そんなことで私は本当子育ては卒業しちゃったもんですから、すいません、意見がなくて。ありがとうございました。</p>
J 委員	<p>この報告書を見たときに、14 ページの自分は役に立たないと感じるっていう言葉がとても悲しかったです。なんか、これはどう捉えているのかなっていう。アンケートを読んだ人も、これをどう捉えるんだろうなっていうことをちょっとと思って、自己肯定感に関しての質問だとは思ったんですけど、その中でもやっぱりパーセントがゼロじゃないってことは、やっぱり何かそういう思いをしている人がいるんだなっていうことを、ちょっと心に刺さるというか、これをどう捉えたらいいんだろう私っていうふうにちょっと思いました。</p> <p>それから民生委員としては、やはりヤングケアラーのところは気になるところだなというところで、その中で相談していない理由が、家族の中で見れるからっていう範囲、これでヤングケアラーにいくのか、家族の中の出来事で済んでしまうのかっていうところではあるとは思うんですが、相談するほどじゃないとか家族以外の人には相談できないとか、身近にそういう人はいない、相談しても状況は変わらないと思うって思ってしまっているところは、何か残念なところであり、ここで何かこう手立てがあるのかなっていうことを考えました。私達ができること、中に入つてくってなかなか難しいので、できていないのが現状なんですが、ここに何かできるでしようかって思いました。</p> <p>それから、私、お仕事としてはつどいの広場の仕事をしております。そんな中で思うところは、やはり1歳になると、皆さんお仕事に復帰されていくっていう中で、育休を短くしてでも保育園に入れないと早く出すっていうか、なんかそういう傾向もあるし、育休っていうシステムがあるのに、それを短くしてもいかなきやならないとか職場から早く早くと言われるとか、何かそういうのも残念なことだなと思うのと同時に、今日いろんなアンケートや若者の声を見たときに、働き方についてはあまり書いてないなというか、働かなきやならない、それが大変だからっていう</p>

ところはあるんだけど、働き方が変わったらいいのについていう声がないんだなって。私は子育て中の方たちには、パパであろうがママであろうが、働き方をその人たちには何か配慮があつていいんじゃないのかなって。全体を見ていて、親子の関わりって時間の長さではないと思うけど、お母さんたちが預けたい預けたいっていう発言がとても多い。考えたときに、なんでそう思っちゃうんだろうなって。預けたいって思うその根底にあるものは何なのかなって。大変さなのか、1人で背負っているワンオペと言われるようなことなのか、家族の協力がないのか、社会が厳しいのかつていろいろ思うんですが、そんなことを考えたときに、やはりママもパパも子育て機能、働き方をもう少し何かもっともっと何かあつたらこどもと一緒にいる時間も楽しんでもらえるのかなということをちょっと思いました。

それから、これは産んだ後に聞いていることなので、どこにも出てこなかつたんですが、産科がないっていうこと。1ヶ所しか産むところはないっていうことについてはどこにもピックアップされてこないけど、私はやっぱり産むところが、お母さんたちにとっても選べたらいいなっていうのは思います。産む数も少なくなっている現状ではあるけど、他の市町村とかと比べると産めるところが1ヶ所しかないので、やっぱりそのところの声もちょっと拾えるといいのかなというふうに思いました。それからパパたちの声ももう少し聞いてみたいな。子育てライフ中のパパの声も拾ってもらうといいかなと思いました。

あとこれをここに出てきたこの声をどういう形でどこに示していくのかなって。市政に生かすだけじゃなくて、社会で支える仕組みの方にも少しシフトできるように。社会の温かい目でつて、どつかにありましたよね、子育て世代の座談会のところにも、かつて子育てをしていた世代にも関わつて欲しいとか、こどもが騒いでも優しい眼差しで見守つてよとか、何か今時の子育てを知つて欲しいんだっていうところもあったので、社会で支える仕組み、そこに何かアプローチしていただけたらいいなと思いました。

あと最近私が出会つた息子の同級生の女の子2人は、飯田を離れた子たちでしたが、最近まで県外にいたんですけど、1人は京都かな、夫婦ともに京都の方にいたのに、「子育てするんだつたら飯田って思つたから帰つてきました」って言ってくれたので、那样的なねって。2人とも30代前半、そちらの仕事を辞めてまで飯田に帰つてきて子育てをしようと思つてくれた。飯田に実家があるからっていうのもあるんだけど、やっぱ実家があつて、ここがいいって思つてくれて帰つてきてくれたっていうのはとても嬉しい出来事で、それが2件続いたので私はとても嬉しい思いました。やっぱり飯田がいいなって思つてくれる要素がこれからも増えるといいなって思いました。そんな中で今日あの3人の方たちの意見がとっても嬉しいことばっかりで、ずっと頷いて聞かせてもらったので、ぜひぜひ高校生や短大生の声をこれからももっと拾つていけて、それが生かせていけるといいなと思いました。

K委員

私は結婚相談員の立場から感想を述べさせていただきますが、この資料の2の中の高校生大学生向けのライフデザインセミナーでの課題に対しての生徒さんからの声を見ていますと、「家庭を持ちたい」とか、「こどもは大変だけどパートナーと協力して楽しさとか新たな学びを得たい」という希望を持った前向きな意見が随所に見られましたので、とっても嬉しさもあり、周りの大人もこれからしっかりとそこら辺のところも支えてあげないといけないなっていう思いを持ちました。

	<p>私は28年間この仕事に携わっているんですけども、最近っていうかここ何年かくらいからなんですが、若者の未婚化とか晩婚化とかっていうのが問題になっていきます。昔は、私はずいぶん歳ですから、私達の頃っていうのは、世間に世話焼きのおじさんやおばさんたちがおりまして、年頃の息子さん娘さんたちですね、おせつかいを焼いてくださって、それで結婚する人たちも多かったんですけど、今は個人情報の保護法であるとか、セクハラだ、パワハラだということを言われる時代ですから、こちらから結婚相談員としても声をかけていかれない現状なんですね。だから、大抵の人が相手を探したい、困ったなっていうことで相談に来ていただけるのを待っている状況なんですけれども、そういった相談する場所もあるっていうことを、もっと多くの方に知ってもらいたいなという気持ちは十分あります。ていうのは、飯田市の中にそういった結婚相談員なんていう人たちがいるの?っていうことをよく聞きますので、そういったところを徹底して、もっと知ってもらいたいなっていうこともあります。今回この資料見まして、高校生とか大学生など若いうちにこうしたセミナーを実施することで、結婚への意識というものは変わるでしょうから、とても大事なことだと思うんですね。もっと本当に若い時から結婚ってこういうもんだよ、子どもを育てるってこういうことだよっていうことをもっとセミナーみたいなもの開いていただくと周知てきて、そういう意識も変わっていくのではないかなっていうことで、先ほどからお話を聞いておりました。</p>
L委員	<p>飯田市子育てつどいの広場では、保育園年少さんに上がる前のお子さん、親子の皆さんのが気軽につどい、交流できる場を提供しています。今現在、8団体10ヶ所で地域子育て支援拠点事業に取り組んでいます。先生方がおっしゃっていたように、やはり以前より1歳2歳で入園するみなさんが多いので、年々利用者数としては、少し減少傾向にあると感じています。そんな中でも、今の子育て中の親子の皆さんのが、何が必要かっていうのを考えながら、アンテナを立てながら、各団体いろいろな事業に取り組んでいます。</p> <p>私のいる子育てつどいの広場では、飯田市での「子育てライフについて語ろう」を、会場に行っていただきました。25組48名のお母さんたちが来てくださいり、参加すると今回は人形劇のワッペンをいただけるということもあり、いろいろな年齢の方、もう保育園にお子さんが上がってるお母さんたちも参加してくださり、いろんな声を聞かせていただきました。やはり暑い日、寒い日、雨の日に遊べる広い場所が欲しいよっていうのは毎年聞こえてくる意見かなと感じました。今回皆さんに意見を聞かせていただいて、それをお母さんたち自分たちでみんなの前で発表していただいたんですが、その発表の機会が普段人前で話すのが苦手なお母さんとか、なかなか自分の意見が伝えられないお母さんたちも、こういう機会をいただくことで、いろんな姿を見せてくれたり、いろいろな意見を出して、お母さんたちも終わった後すごくみんなで団結して、グループで仲良くなったり、そんな姿が見えて、こんな機会をいただけてありがたいなというふうに思いました。</p> <p>前後してしまいましたが、このアンケート調査のところ、若者の意見を聞くアンケートのところに関しては、一番すごく気になったのが、自己肯定感が低いところが、すごく気になりました。全体では家庭がほっとできる場所であるとか安心できる場所、飯田市が好きだよっていう意見もたくさん聞いて嬉しいという反面、自己肯定感が低いっていうところが、すごくどういうふうにしていったらいいのか</p>

	<p>なって率直に感じたところではあります。あと先ほど高校生も言ってくださったみたいに、アンケートの数がもう少し、これだけ若い方の意見をもっともっと聞ければといいなと思ったので、先ほど言ってくださったみたいに学校への協力とか、アンケートに回答する機会っていうのがどういう形で何か取れるといいのかなっていうふうに考えました。</p>
M委員	<p>資料 1-2 号のワードクラウド分析っていうのは非常に面白いなと思って。これって年代によって主語が変わるのがなっていうふうに思ってみると、例えば、増やす、ほしいっていうところも、十代とかであれば遊ぶ場所が欲しい。一方で子育て世代であれば、こどもたちの遊び場が欲しいとか、増やして欲しいとか。主語で変わってくるのかなと思ってみると、学生さんであれば友達との遊び場であったり、やっぱり便利さっていうところが求められるところかなと思って。一方で子育て世代でいきますと、飯田市ってやっぱり自然環境が非常に豊かですので、この自然環境が良かったりとか、この子育て環境が欲しい、いいなって思うと、子育て世代からすると、ちょっと便利でちょっと不便が実はとてもよくて、その中では飯田市は非常にいい場所もあるのかなと思っています。県外から移住した方に聞きますと、やっぱり都市部に比べると、こどもと遊ぶ場所がないっていうのはあるんですけど、遊びに出かけても意外とお金がかからないっていうメリットがあるっていう。都心部ですと車をとめるだけでも数千円かかってしまうんですけど、飯田市は2時間無料という、非常にこんなところないよっていうふうにお話も伺っているので、やっぱりそういう飯田市の強みっていうのはもっともっと出していけるし、アピールできるのかなっていうふうに思いました。やっぱりそれとあわせて多くの場所で意見として出てくると思うんですけども、こどもたちが遊べる場所、暑いし、寒いし、雨の日にも遊べるところが欲しいなっていうのは、多くの方から出ている意見だったなっていうふうに思います。特に今、猛暑で夏は外に出られないで、やはりそういうときにこどもたちと過ごせる場所っていうのが欲しいなっていうのは思います。そして、そういうところで学生とか関われる場所って非常に画期的で本当にありがたいなと思うので、ぜひ、何かこういう場で前向きに検討できたらいいかなというふうに思います。</p> <p>それから資料 2 の方ですね、親子応援食堂についての記載があり、ここで非常にやっぱりフルタイム長時間化が進む中で、ありがたいという声もありましたけども、私も実際、昨年度までは、娘を朝7時半から夜7時まで預けておりまして、やっぱりそういうときの親の心情は、非常に子供に申し訳ないっていう気持ちで働きに行って、1分でも早く迎えに行きたいっていう思いでいるんですけども、やっぱり共働きフルタイム世代が増えている中で、その中の親のワードクラウド分析をしたら多分「早く」っていうのがど真ん中にくるんだろうなと思います。早く起きなさい、早く食べなさい、早く支度しなさい、早く帰りますよ、早くお風呂に入りなさい、早く寝なさい、ってふうになってきちゃうのかなって思うと、なかなかやっぱりそういう中で、子育ての楽しさっていうのは味わえない部分で増えてきてしまうので、今国はいろいろ働ける環境ということで進めていますけども、実際には働きたい環境よりも、育てたいっていう環境を作っていただける方が非常にありがたいのかなと思います。ですので、特にやっぱり就学前までの補助といいますか働き方、時短勤務を取得している方への補助であったり、その会社とかへの補助であったり</p>

	とか、そういうことを拡充していただけると、より飯田市の子育てというものが前向きなってくるんじやないかということを、お金がかかる問題かとは思いますけれど、思っているところで、私からの意見とさせていただきます。
N委員	今までの発表の方々の主なものは、飯田市の中での子育てに対する考え方、それのお立場から発表していただいたり、お考えをいたいたってふうには思っています。その中で、やはり最後のところでこうあって欲しい、ここはこうあった方がいいだろうな、これが必要だろうな、ここを直していけたら、それは本当に大切なことでありますので、絶えず今後考えていきたいと思います。それはそうとして、私は報告書をいただいて読み始めて、やはりこの数字の大きさは、以前から言われていたことではありながらも、いざ目の前に数字として出てくる。既婚率の低さ、未婚率が半数を超えてるっていう、ここのことと、あと細かいところにはあまり触れていきませんけども、自己肯定感で、高校生の段階っていうようなところではまだまだ肯定感は高いけれども、これが20代30代30代の終わりの方になっていくにつれて、自己肯定感の低下っていうようなものは数字として読めたんじやないかなって自分では思うんです。それで、本当に具体的な部分がないんですけど、どうしたらしいのかなっていうこのテーマをもらってから、ずっと考えておりまして、それでもできることとして、自分も保育園をやっておりますので、まず自分の職場の中で、未婚の若い職員がたくさんおります。結婚しているからいいとか、そういうことは全く思いませんけども、この若い人たちの生活というものを考えたときに、有給休暇を取りやすくするとか、先ほども出ていますが、待遇改善ずいぶん良くなって、本当に二割三割っていう待遇改善も保育士さんになされてもいます。勤務時間についても、できるだけ早く帰る、私の職場はほとんどもう7時を過ぎるなんてことはありません。6時ちょっと過ぎればもうかなりいなくなるっていうそういう職場には、随分近づいてはきてはいるんですが、どうも若い職員のところに大きな変化、限られていますので、見られていないなっていう。だから、本当に若者の意識というものをもう一度考えてみたいなって、ずっと考えていたときに、朝日新聞の6月の天声人語のところに、低出生率の罠ということで書かれていて、日本はその罠にはまっていて、なんか結局、少子化対策はずつとやってきてはいるんだけど成果が出てこない。それは若者に対して、産めよ、育てよ、そういう圧力的なものが多くなっていて、それをやってる限りは罠にはまつたまんまだっていうのを見たんですね。やはり、そうではなくて、若者が自分の生き方は自分で決めるんだっていう意識を持たない限り、その罠から外れること離ることはできないんじゃないかなと、こんなことも一つあるもんですから、本当にこれをどうしていったらいいのか、単なるの少子化とかそんな問題のもんじやないなっていうことも考えております。まとめません。
O委員	このアンケートの関係に関しては、食のことに関しては全然出てきてないんですけども、最終的には食が一番大事かなって思っています。高校生に食の支援講座を行っているんですけども、コロナの時期に学生生活を送っているので、食というか、作ることに関して何もしていない子たちもとても多くて、料理に関して、作り方がわからないのはもちろんんですけど、包丁の使い方、もちろん料理に興味がない人に関しては、リンゴの皮むきは絶対できないと思うんですけど、リンゴの皮むきをピューラーでやればいい、魚を切るのはキッチンばさみで切ればいい、昔の親で

	<p>したら、なんてこと言っているのってなると思うんですけど、それが今の世代になってきています。なので、それが悪いとは言わないんですけども、この間、ふるさと自然体験っていうのがあって、そのときに、保育園から小学校のこどもたちにカレーを作つてもらったんですけど、生き生きとやっぱり料理をするんです。自分たちが食べたいって思うし、お芋の皮をむきたい、にんじんの皮をむきたい、玉ねぎの皮は、むくけど目がいたいなあと言いながらしてくれるんですよ。そういうのって、教えるわけでもなく、自分からしたいって思う子たちがその場には集まっているんですね。だから、コロナの時にやっていない子たちにとっては、そういうものが興味のないものとしてあるのかもしれないって、今の高校生に教えるときちょっと悲しいものが多々出てきたりするんですけど、上久堅のふるさと自然体験したときに、保育園から小学校の子たちだったんです。そこに、ボランティアで中学の子たちにお願いしたんですけど、中学の子たちは卒業生だから、こどもたちの名前も全部知ってるし把握もしているので、上手にまとめてくれたんです。だから、そういうのって、やっぱり両親共働きなったときに、みてくれる子たち、ボランティアを中学生高校生短大生くらいにしてもらえるようになれば、やっぱり地域の絆が深くなるし、地域に対しての愛着も増えてくると思うので、そういう意味で、ボランティア活動を高校生・短大生にお願いする手もあるなと、短大生の話を聞いて思いました。</p>
P委員	<p>飯田市は20の公民館があるんですけども、もうそれぞれのところで子育て支援っていうものを最近は一番に考えて、いろんなイベントや行事を考えていると思います。そのことは後でまた話をしますけれども、このアンケートの中で私が一番気になったのは、ヤングケアラーのところですね。先ほども出ましたけど、18ページの「相談しても状況が変わるとは思わない」っていう、複数回答で3人が答えられたと。こんなことを答えさせちゃいけないと思うんですよね。この種のことは、厚労省は地域包括システムを作ったときに、そこでやりなさいと、そういうふうに言ったはずです。私も一緒に厚労省とやったもんですから、それはもうできていると思ったんですが、こんな答えが出てくるとは思わなかつたです。地域包括ケアセンターあるいはシステムっていうのは飯田市も当然かんではるはずなので、この辺りのところはしっかり対応しなきゃいけない。そのシステムはあるはずですから、それをやっていただきたいと思います。</p> <p>公民館のことに戻りますけれども、公民館としてもですね、こどもたち子育てについて、先ほどからやってるって言いましたけども、乳幼児学級をやっているのをご存知だと思います。それからあとは、下久堅では、児童クラブの運営委員会の監査もありますし、放課後こども教室を週に3回やっておりまして、その運営委員長は公民館長なんですね。月に2回そのスタッフで出していくというようなことをしています。あとはこどもたちとのふれあいとしては、小学校のこどもたち、コミュニティスクールというのがありますし、地域の人たちとこどもたちが、昨日もサツマイモ掘りに行つたりしています。</p> <p>先ほどもお話がありましたが、学園構想が今年度始まって、それでみらい創造科が小学校ではできたと。6年生から3年生までが一つのグループを作つて、自分たちでテーマを決めて、それで地域の人に関わつてもらって、自分たちのテーマ・目的を成就していくというようなことが行われています。下久堅小学校のそのときのス</p>

	<p>ローガンが「地域で学ぶ、地域に学ぶ、地域を学ぶ」というもので、そういうスローガンで、ふるさとを知つてもらう、あるいは、そのときに地域の人たちと関わつて、自分たちのテーマ・目的を達成していくというようなことをされておりまして、私は秘密基地を作るというところで、今関わっています。先週やっとできたんですけども、先ほど上久堅の例がありましたけれど、若い人たちに故郷をよく知つてもらうということを、公民館はもう以前からやつていて、それを大事だというふうに思つています。公民館は、教育委員長から辞令をいただきましたので、縦割りで組織が違うんですけども、この会とコラボして、こどもたちを育てていくということをやつていかなきやいけないと思っています。今度の公民館大会では、「温故知新」という四字熟語で、温故は古きを知るんですけども、故はふるさという字で、ふるさとを知つて、それを大事に温めていくということを考えいくにはどうしたらいいかということをテーマに考えたいと思います。皆様からも、何かいい提案がありましたらよろしくお願ひいたします。</p>
こども課長	<p>こども課長の筒井と申します。ありがとうございました。それぞれのご経験やお立場からお話を聞かせていただきまして、このような機会を設けてお話をいただきまして本当にありがとうございました。時間も限られておりますので、手短にお話をさせていただきたいと思いますけれど、私が印象に残ったのは、アンケートの回収率ですけれども、12.4%ということで、去年やったアンケートが8.0%だったので、昨年度は数パーセント4ポイントぐらい改善したんですけども、まだ十分に声を聞かせていただけてないなというふうに感じております。先ほどお話があった通り、このアンケートをやつたことで、いいことというかそういうものが反映されていくっていう仕組みがだんだん伝わってくると、回答していただける方や回答したことに対する満足感が上がっていいくと思いますので、これからも積み重ねて、少しでも回答いただけるような環境、アンケートの工夫等は進めてまいりたいなというふうに思います。</p> <p>あと、何人かの方からお話をいただきました幼少期の体験等は、飯田市に戻つてくるためのモチベーションというかそういうきっかけになるつていうことで、私自身のことを振り返つても、自分が小さかった頃の思い出とか良かったこと、ここで経験させてもらったことは今でも印象に残つていて、それもあって今私はここにいます。幼少期の経験もとでも大事なんですけれども、それに合わせて大人になって、ここに帰つてきたいと思ってもらえる環境、それは産業であつたり、働き方であつたり、地域の魅力であつたり、人の生活というのは様々な要素が関わつて成り立つてゐるものですから、人によつて何を重視するかっていう捉え方が変わつてくるかもしれないんですけど、地域全体のそういう選択肢というか魅力が少しでも増えるように、行政の一部だけではなくて、地域全体の皆さんと一緒に考えさせていただいて、進めていけたらいいかなというふうに思います。</p> <p>あと、何人かの方からお話をいただきましたけれど、私が小さかった頃と比べて明らかに環境といいますか、夏はとても暑くてっていうことが続いています。今日のこの場だけではなくても、市民の皆さんから声を聞かせていただく場の中で、雨天や猛暑でも安心していられる場所を作つてほしいという声を聞かせていただいておりますので、今まで検討してこなかつたわけではないんですけども、今後、検討を進めさせていただきまして、お話ができる時が来ましたら、改めてお話をさせて</p>

	いただきたいと思います。こういう場で、様々な方からお話を聞かせていただける貴重な機会だと思いますので、お礼を申し上げたいと思いますし、またこういう場でいろいろな方のお話を聞かせていただいて、自分なりに考えたり行動できるといいのかなというふうに思います。ありがとうございました。
--	--

(3) 分科会の名称の見直しについて

(高山こども課長補佐兼子育て支援係長より資料No.3-1の説明)

意見質問事項

A委員	いま説明にありましたように、令和5年に施行されたこども基本法やこども大綱を踏まえまして、児童福祉分科会で審議する内容を「保育など児童福祉」だけでなく「こども・若者・子育てに関する施策の総合的な推進に関する事項」へ拡大する必要があると思います。 また、拡大された当分科会の役割がわかりやすいように、「児童福祉分科会」の名称を「こども若者」を対象とする表現へ名称変更することが望ましいと考えます。そこで、飯田市が社会福祉審議会条例を改正するにあたっては、以上の点を当児童福祉分科会の全体の意見として、行政へ申し送ることとしてよろしいでしょうか。
委員	異議なし。

(4) 私立保育園の認定こども園の認可申請（移行）について

(齊藤保育家庭課保育係長より資料No.4の説明)

意見質問事項

A委員	事務局から説明がございましたけれども、ご発言やご質問はありませんでしょうか。
委員	異議なし。

6 その他

飯田市こども課公式Instagram「IIDA_YUI_LIFEDESIGN」について、高山こども課長補佐兼子育て支援係長より説明。

7 こども課長あいさつ

予定の時間を超過してしまいました、申し訳ございません。今日は、それぞれの方から貴重なご意見や今現実に起きていることを聞かせていただきまして、ありがとうございました。今日のこの場だけではなくて、また皆さんの身の周りで起きている課題等について聞かせていただいて、その背景に何があるか、改善していくけるようにするにはどうしたらいいかということを考えまいりたいと思いますので、またご意見を聞かせていただきたいと思います。

外はすっかり暗くなつて寒いので、気をつけてお帰りください。今日は長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

8 次回開催予定

日時：令和8年2月頃予定

9 閉会